



貧しく土地を持たず、女性が世帯主となっている家庭が食料価格高騰の影響を最も受けた
©FAO/Giulio Napolitano

飢餓人口、9億6,300万人に増加

——食料価格高騰が原因、経済危機により問題悪化の可能性も

栄養不足状況に関するFAO報告書の最新版「The State of Food Insecurity in the World (世界の食料不安の現状) 2008」の刊行にあわせてFAOが発表した暫定推計によると、世界の栄養不足人口は、主に食料価格の上昇により2007年の9億2,300万人からさらに4,000万人増加し、2008年には9億6,300万人に達しました。

主要穀物の価格は2008年初頭のピーク時から50%以上下落しているものの、2008年10月時点のFAO食料価格指数は2006年10月に比べてまだ28%高い水準です。種子や肥料といった投入財の価格も2006年の倍以上となり、貧しい農民は生産

を増加することができませんでした。一方で、先進国の裕福な農民は作付けを増やし、結果として、先進国の穀物生産は2008年に10%増加、開発途上国での増加は1%にも満たないと見込まれます。FAOは、現在進行中の金融・経済危機によりさらに多くの方が飢餓と貧困に陥る可能性がある、と警告しています。(12/9、ローマ)

※詳細は季刊誌「世界の農林水産—FAOニューズ—」2009年春号に掲載予定。

関連ウェブサイト

World Food Situation : www.fao.org/worldfoodsituation
FAO日本事務所 : プレスリリース「飢餓人口9億6300万人に増加」 : www.fao.or.jp/media/press_081209doc.pdf

Contents

Top -----

飢餓人口、
9億6,300万人に増加

Articles -----

アフリカで求められる
水資源開発

太平洋諸国の気候変動と
食料安全保障

金融危機に脅かされる
「ジャガイモ・ブーム」

エボラ・レストン・ウイルス、
豚への感染

北朝鮮で870万人に
食料支援が必要

農業・林業における
気候変動への取り組み

Perspectives ---

今月の視点
2009年は「国際天然繊維年」

Activities -----

講演会

関連イベント

出版物

Info -----

今後の主な活動予定

テレフォード募金にご協力を

メールニュース配信のお知らせ

FAO 寄託図書館のご案内

本紙の配布について

FAO
Newsletter

Feb. 2009
vol.35



チュニジア南部のサイホン式かんがい
©FAO/Florita Botts

アフリカで求められる 水資源開発

UN Water 議長のFAOとリビア政府は、シルテ (リビア) において、アフリカ連合 (AU)、水開発に関するアフリカ閣僚会議 (AMCOW)、アフリカ開発銀行 (AfDB)、国連アフリカ経済委員会 (ECA) と共同で、アフリカ 53 ヶ国の参加を得て「アフリカにおける農業、エネルギーのための水資源開発：気候変動への挑戦」をテーマにした会議を開催しました。気候変動の影響を最も受けているアフリカでは農業生産の増大、エネルギー開発のために20年間で総額650億ドルの投資が必要であることが提起され、農業危機に対する早期対策基金創設も緊急の課題に挙げられました。最終日に採択された宣言では、水資源、農業、エネルギーを統合的に開発することが持続的な発展にとって最重要であることが確認されました。また、食料サミットを開催し年間300億ドルを水資源、農村インフラに投資することを呼びかけたFAOの提案が歓迎されました。(12/15-17、シルテ)

関連ウェブサイト

Water for Agriculture and Energy in Africa: the Challenge of Water for Agriculture and Energy in Africa: the Challenge of Climate Change : www.sirtewaterandenergy.org
FAO Water Website : www.fao.org/nr/water
Director-General's Homepage : www.fao.org/about/director-gen

太平洋諸国の気候変動と 食料安全保障

FAOは、気候変動の影響による海水温の上昇やサイクロン、干ばつなどが太平洋諸国の食料生産システムに壊滅的な打撃を与える恐れがあると警告しました。FAOと南太平洋地域環境計画 (SPREP) 等による共同報告書「Climate Change and Food Security in Pacific Island Countries (太平洋諸国における気候変動と食料安全保障)」によると、こうした災害はすでに同諸国に深刻な被害をもたらしており、今後も長雨による水源への損害、害虫・雑草の蔓延、海面上昇による沿岸部の浸水や塩水化、漁獲量の減少などが危惧されています。(12/2、ローマ)

関連ウェブサイト

FAO and Climate Change : www.fao.org/climatechange
Small Island Developing States : www.fao.org/sids

金融危機に脅かされる 「ジャガイモ・ブーム」

FAOの新しいレポート「New light on a hidden treasure (隠された宝に新しい光を)」は、2007年に世界で3億2,500万トンのジャガイモが生産され、その半分以上を途上国が占めることを伝えています。一方で、世界的な金融危機に伴う先進国の国内農産物保護政策や資金の貸し付け縮小のため、途上国では農民が2009年の植え付けを行なえてなくなっています。現在、アフリカ、アジアおよび中南米でのジャガイモの単収は西欧や北米の半分以下にすぎません。途上国での生産と農民の収入を増やすためには、気候変動の影響に強い新品種の開発や、農民が技術指導を受ける機会づくり等が必要です。(12/15、ローマ)

関連ウェブサイト

International Year of the Potato : www.potato2008.org

エボラ・レストン・ウイルス、 豚への感染

豚の死亡率が上昇していたフィリピンの2州で採取された検体からエボラ・レストン・ウイルスが検出され、フィリピン政府は、FAO、国際獣疫事務局 (OIE)、世界保健機関 (WHO) に専門家チームの派遣を要請しました。エボラ・レストン・ウイルスの豚への感染が判明したのは世界でも初めてのことです。このウイルスは、エボラ・ザイール・ウイルスなどと違いヒトへの影響は軽微ですが、血液、体液との接触によって感染するため、養豚場や作業者の衛生管理、感染した豚の適切な処分が重要です。(12/23、マニラ/ローマ)

関連ウェブサイト

Ebola-Reston in pigs : www.fao.org/ag/aga/info/home/en/news_archive/2008 Ebola.html
OIE : www.oie.int
WHO : www.who.int



何百万という家族が今年もまた食料不足に直面している
©WFP/Micheal Huggins

北朝鮮で870万人に 食料支援が必要

— 肥料と燃料不足により生産が低迷

2008年10月に朝鮮民主主義人民共和国を訪問したFAO/WFP穀物食料安全保障評価調査団の報告書によると、同国では今期の生育期間中の良好な気候条件にもかかわらず、2008/09市場年度(2008年11月-2009年10月)の食料総生産は推定421万トンで、商業輸入(約50万トン)を加えても83万6,000トンの穀物不足に直面すると予測されています。これにより幼い子どもや女性、高齢者を中心とする推定870万人(人口の約40%)が、緊急に食料援助を必要としています。同国の農業分野における低い生産性は主に、肥料などの投入財の不足、長期的な土壌肥沃度の減少、市場活動への制約を含む構造的な問題等に起因するものです。(12/8、ローマ)

関連ウェブサイト

FAO日本事務所：プレスリリース「朝鮮民主主義人民共和国で870万人に食料支援が必要」：www.fao.or.jp/media/press_081208doc.pdf

ウイルスの感染経路、毒性などに関するより詳しいテストが必要とされる ©FAO/Saeed Khan



農業・林業における 気候変動への取り組み

温室効果ガス排出量の30%を占める農林業において排出量を削減するためには、品種改良や森林火災対策、天然資源管理の改善、家畜の糞尿から発生するバイオガスの回収、放牧規模の適正化、有機土壌管理、保全農業、アグロ・フォレストリー推進などの取り組みが必要とされており、これらの取り組みに林業従事者や農民自身が参画できるような資金メカニズムが必要です。(12/4、ローマ)

FAOをはじめとする14の国際機関は、森林破壊による温室効果ガスの排出を削減するため、政策立案者たちが持続可能な森林管理を行っていくことを支援する「森林に関する協働パートナーシップ(CPF)」を立ち上げました。(12/5、ポズナン)

関連ウェブサイト

Collaborative Partnership on Forests (CPF) : www.fao.org/forestry/cpf-climatechange
FAO's Forestry Department : www.fao.org/forestry
Climate change : www.fao.org/climatechange
Climate change and food security : www.fao.org/climatechange/media/16606/1/0
FAO's response to climate change : www.fao.org/climatechange/media/16607/1/0
Pacific: climate change threatens food security : www.fao.org/news/story/en/item/8658

今月の視点

2009年は
「国際天然繊維年」



2009年は、国連総会で定められた「国際天然繊維年(International Year of Natural Fibres, IYNF)」です。天然繊維は、合成繊維にそのシェアを奪われてきていますが、人々の生活にとって有用であることのほか、開発途上国の農業振興、飢餓・貧困の削減、環境問題への貢献等の観点から、その重要性は再認識されるべきです。

開発途上国においては、多くの小規模生産者が天然繊維の生産に従事しており、そこから得られる収入は貧困の削減や食料安全保障の確保に不可欠です。特に、西アフリカ諸国の綿花、バングラデシュのジュート、タンザニアのサイザルアサなどは、それぞれの国において国民経済上極めて重要な役割を果たしています。西アフリカや中央アフリカでは2,000万人の人々が綿花部門で働き、アジアでは1,100万人の小規模農家がジュートの生産に従事しています。

また、天然繊維は、一般的に合成繊維と比較して、その生産や処分の面で、地球環境にやさしいと考えられます。世界全体で天然繊維の良さを見直し、新規用途も含めた需要の開拓を進めるとともに環境にやさしい農業技術の普及を図りながら、小規模農家の生産と所得を支えていくことが重要となっています。

(FAO日本事務所長 横山光弘)

IYNFウェブサイト：www.naturalfibres2009.org

Activities

講演会

2008年12月9日、JAICAFと農林水産政策研究所、FAO日本事務所の共催により第6回食料・農業協力講演会が開催され、南口直樹氏（FAOアジア・太平洋地域事務所脆弱性分析調整官）が「食料安全保障に関する情報・地図化システム（FIVIMS）とアジアの食料安全保障状況」をテーマに講演を行ないました。世界の飢餓の現状を把握しその削減に貢献するためFAOが開発した情報・地図システム「FIVIMS」について、その開発の経緯や、カンボジアやミャンマーなどアジアの食料安全保障の状況を例にした具体的な分析手法が紹介されました。

※季刊誌「世界の農林水産—FAOニュース—」に、南口氏による「FIVIMS」に関する解説を連載中。

関連ウェブサイト

JAICAF：ニュース：「2008年度食料・農業協力講演会」：www.jaicaf.or.jp/news/index.htm
FIVIMS：www.fivims.net



講師の南口氏 ©JAICAF

関連イベント

FAO日本事務所が企画段階から協力しているJICA地球ひろば（東京・渋谷区）の企画展「食料問題を考える『飢餓×飽食』」が、2008年12月2日より2009年3月1日まで開催されています。「十分な食料が生産されているはずなのに、なぜ世界には飢えている人がいるのだろうか？」という問題を考えるため、日本人の日常生活にも大きく関係する「世界の食料」について、資料展示やイベントが行なわれています。JICA地球ひろばの案内人の皆さんが何度も横浜のFAO日本事務所に足を運び、展示物の作成や企画について熱心に相談されました。FAOの展示物や映像資料が随所に見られるほか、1

月21日にはFAO水産局OBであるJICA専門員、杉山俊士氏による講演会が開催されました。会場には修学旅行生をはじめ多くの方が訪れており、NHKのニュース番組「おはよう日本『首都圏』」でも紹介されました。

関連ウェブサイト

JICA地球ひろば：特集：食料問題を考える「飢餓×飽食」：www.jica.go.jp/hiroba/feature/index.html



展示会場の様子 ©JICA地球ひろば

出版物

世界の食料・農業事情に関するFAOの年次報告書「The State of Food and Agriculture 2007」の日本語版「世界食料農業白書 2007年報告：環境便益に対する農家への支払い」がJAICAFより発行されました。JAICAFウェブサイトで全文（PDF）をご覧いただけます。お問い合わせ・詳細はJAICAFまで。

関連ウェブサイト

JAICAF：FAO関連出版物：www.jaicaf.or.jp/fao/publication/index.htm



今後の主な活動予定

2008.12.2 - 2009.3.1

企画展 食料問題を考える『飢餓×飽食』

会場：東京・JICA地球ひろば
主催：JICA
協力：FAO日本事務所ほか

2009.2.11 14:00 - 16:30
青少年のための地球市民講座
「国際協力コース」第1回

講師：国安法夫（FAO日本事務所副代表）
「気候変動・バイオエネルギーと食料安全保障」ほか
会場：横浜・YOKE内会議室
主催：YOKE

テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅草の根募金



メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

FAO 寄託図書館のご案内

所在地

神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階
FAO日本事務所内

利用予約および問い合わせ

TEL：045-226-3148

E-mail：fao-library@jaicaf.or.jp

開館時間

平日10:00 - 12:30、13:30 - 17:00

本紙の配布について

本紙「FAO Newsletter」は、季刊誌「世界の農林水産—FAOニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。指定場所でも配布しています。詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

発行：(社)国際農林業協同協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道りか、Linda Yao（FAO日本事務所）

森麻衣子、廣瀬ちづる（JAICAF）

翻訳協力：大軒 恵美子 ほか

デザイン：岩本 美奈子、数内 新太

News source：www.fao.org

FAO Newsletter

Feb. 2009

vol.35